

千葉大学医学部附属病院産科で 前置癒着胎盤の診断で帝王切開時に子宮全摘された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年3月5日

産科・婦人科

産科・婦人科では、前置癒着胎盤の診断で帝王切開時に子宮全摘を施行した症例に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2008年12月1日から2024年12月31日までに、妊娠22週以降に前置癒着胎盤の診断で帝王切開と同時に子宮摘出を行った方

1. 研究課題名

「当院において前置癒着胎盤にて Cesarean Hysterectomy を行った34例の合併症に関する後方視的検討」

2. 研究期間

2025年承認日～2026年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

胎盤が子宮口を覆う前置胎盤、かつ胎盤が子宮壁に癒着し自然に剥離されない癒着胎盤が合併した前置癒着胎盤に対する帝王切開術ならびに帝王切開時の子宮摘出（Cesarean Hysterectomy）は難易度の高い手術であり、手術前の十分な準備や手術中の迅速な対応が求められます。また大量出血、他臓器損傷を含めた術中合併症も多く、その予防策や他科との連携も必要です。この研究では、当院で経験した帝王切開時の子宮全摘を行った症例から術中出血量が増える要因や他臓器損傷（特に膀胱の損傷）の要因

などを分析し、合併症のリスク評価や合併症の発生率減少のための方法を検討することを目的としています。この研究により、今後の同じような患者さん方における手術前の評価や管理がより適切となり、また手術合併症が減少すると考えています。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、妊娠出産歴、手術歴、妊娠中の合併症、超音波や画像検査の所見、分娩週数、手術中に使用した医療器具、手術中の子宮や胎盤の所見、手術時の出血量、手術時・手術後の合併症、出生児の体重や合併症

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 助教 尾本暁子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院 産科・婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 医員 向山文貴

同 助教 尾本暁子

043（222）7171 内線5314